

第29回症例検討会 case50

「不育治療が著効するも、
妊娠中に原因不明の疼痛を
生じた一症例」

2023年9月11日

所属 二子玉川 鍼灸サロンvvB

発表者 島田りか

不育症とは

流産または、死産を2回以上繰り返したことがある状態をいう
又は、流産と妊娠12週目以降の死産を一回ずつある場合をいう
原因として考えられること

1. 高リン脂質抗体症候群
2. 子宮形態異常
3. 染色体異常
4. 内分泌異常（甲状腺異常・糖尿病など）
5. 血栓性素因
6. その他の研究段階の不育症リスク
7. 偶発的流産・リスク因子不明

40歳代 女性

主訴: 不育症・卵巣機能改善

背部から側腹部にかけての疼痛

医師の診断名:不育症・疼痛については不明

家族歴:父 前立腺がん

既往症:35歳～36歳にかけて流産経験 3回

現病歴:不育症・高プロラクチン血症・子宮腺筋症

医療機関:不妊不育専門病院

内服薬:カバサール・ディファストン

サプリ類 (-)

生活歴:アルコール (-) 喫煙 (-)

出産歴: (-)

アレルギー:日光アレルギー

客観的情報

身長: 158cm 中肉中背

基礎体温: 36.3°C (低温期)

36.6°C (高温期)

排卵時の基礎体温の上がり方が遅い。

(2日ほどかかる場合もある)

低温期と高温期の基礎体温の差が少ない

東洋医学的情報

証: 気滞瘀血

寒熱: 寒

燥湿: 湿

汗: 気にならず

食事: なるべく野菜を取り入れた食事を作っている

二便: 良好

睡眠: 良好

月経: 35D~45D周期で不安定

精神: 子供が持てるのか考えると不安でいっぱいになる

東洋医学的情報

水滯: 手足に出ることもあり

硬結: 小腹

圧痛: (-)

脈診: 沈・遅

舌診: 齒痕舌

舌色: やや白っぽい

苔色: 薄い白苔

腹診: 臍周り 冷え

小腹 硬い

治療

目的:身体の疲れとストレスを軽くして、血液循環の改善をはかる

取穴:①背部兪穴への置鍼と施灸.

②手足要穴、頭部への置鍼. 腹部への置鍼と施灸.

③阿是穴への深鍼.

刺鍼法:補 浅刺 深刺 置鍼 撚鍼

得気:無～有

深さ:5mm～2cm

通電:無

頻度:1/2w

経過

X年11月 初診。卵巣機能改善のため訪れた。鍼灸が初めてとの事で不育治療にどのような効果があるのか、知りたいとのこと。（生理周期35－45D）

X＋1年2月 7回目。生理周期26－27Dになる

X＋1年3月 タイミング療法を行う

X＋1年4月 11回目。胎嚢確認（＋）8Wで流産、染色体異常（－）

X＋1年7月 16回目。流産の原因が**免疫の問題**ではないかという専門医の判断を受け、体外受精に進むことを決定

X＋1年8月 体外受精・フレッシュ胚を移植したが、着床せず

経過

X+1年11月 採卵し、3日目フレッシュ胚を移植（-）1つは胚盤胞まで育てるつもりだったが、育たず

X+2年1月 採卵9個したが、育たず。検査の結果、子宮内膜炎の治療開始。内膜炎の治療後、採卵、5個の胚盤胞ができた

X+2年5月 33回目。移植後陽性確認。免疫ブログリン療法治験参加の為、しばらく鍼灸治療はお休み（染色体異常で流産）

X+2年12月 2回目の治験参加。移植陽性確認

X+3年3月 34回目。19W。鍼灸治療再開。胎盤の下に7cmの子宮腺筋症があり血液循環を目的として来院。

経過

- X+3年3月 35回目。21w。腺筋症は、変化なし。肋間神経痛とのこと
(右脇腹が痛む)
帯状疱疹でもできたらまずいと思い病院での検査を進めるが (-)
自覚のある肋間神経痛部位に浅鍼と灸を行った**
- X+3年4月 36回目。23W。椎骨に沿って、筋肉が下に引っ張られて痛い**
- X+3年4月 37回目。25W。立っていると内臓が引き攣れて痛みが出る
座っていても、横になっていても角度によって痛くなる
食事の支度もできない
脊際の硬結部位を見つけて深鍼を行った**
- X+3年5月 38回目。27W。右脇腹の痛み、25Wより和らぐ
痛みの種類は筋肉が引き攣れている感じ**
- X+3年5月 39回目。29W。脇腹の痛み (-)
本人曰くポコンと何かが外れたような気がして急に痛みが消失**
- X+3年8月 39W。無事に出産**

考察

痛みの変化をどうとらえるか？

21W目→**肋間神経痛様のピリピリした痛み**

帯状疱疹の可能性？

23W目→椎骨に沿って**背部から側腹部の筋肉が引っ張られて痛い**

子宮腺筋症が絡んでいる？

25W目→立っているときに**下に内臓が引っ張られるような感じがあり痛い、**

座っていても痛い

右を上にして側臥位で休んでいても痛い

内臓痛に変化？

27W目→痛みは和らいできたが、下に引っ張られる

29W目→**ポコンと何かが外れたような感じがして痛みが消失**

考察

妊娠中の痛みに対して鍼灸師が気をつけたいこと

・早産の危険性はないか？

21W すぐに病院に行き検査して問題のないことを確認

23W 痛みは消えないが、病院での検査結果は問題なし
病院ではクレーマー扱いされる

・心のケアが必要

25W **エコーで確認した結果、問題ないが
ご飯の支度ができないほど痛みが強い**

27W 前置胎盤の可能性があるとされる

29W 痛みが急に和らぐ

考察

痛みの中には明らかな原因がないにもかかわらず、痛みが存在する
= 心因性疼痛

心因性疼痛の代表的なものは、身体表現型障害が多い
痛いのに病院に行っても原因がわからない

- ・ 考えてみると鍼灸治療継続時に「子宮腺筋症のため、出産時に子宮ごと取り出すと言われたことが不安になった」ことが痛みの最初の原因？
その後、色々不安なことを言われたため、心因性の痛みが重なった可能性はないか？

考察

鍼灸治療を行うことにより疼痛が減った理由は？

- ・ 知り合いの医師からのアドバイスと、圧痛点に鍼を刺したことで痛みが和らいだのではないか？

1. 心の問題をケアしたこと

2. 圧痛点の刺鍼が体性－内臓反射だったのではないか

内臓からの神経と皮膚からの神経が同じ脊髄分節に入力される内臓と同じ脊髄分節に入力されている皮膚や筋肉を刺激するとその脊髄分節に関係する臓器に影響し、血液量の増加や臓器機能の亢進や抑制が認められる

考察

今回の症例では医師との連携はしていない。
不育症の患者様が妊娠続行から出産までの間のことで、病院の検査に頻繁に行って頂いていたことで安心して、鍼灸治療を行うことができたと思う。
疼痛に関して、検査結果に異常がなくても痛みは種類と部位を変えながら続行し、患者様は心理的にも落ち込んでいたので、知り合いの産婦人科医に相談しながらアドバイスをもらい、鍼灸治療を行えたことは、心強かった。
このようなときに医師と連携して扱えればさらによかった症例と考える。

同種免疫異常による流産（仮説）

- 胎児は母体にとって本来は排除すべき異物である
- 胎児に対する免疫寛容が発現し、胎児を積極的に「非自己」として認識するも、受け入れるらしい
- 機序の詳細は依然不明
免疫寛容の破綻が原因ではないと言われる

文献

腹痛の分類とその特徴

原因	代表的な疾患	症状
神経	肋間神経痛	ビリビリした痛み
筋肉	筋筋膜性疼痛 (腹斜筋、多裂筋など)	重だるい痛み
内臓痛	消化性潰瘍、胆石、胆嚢炎、膵炎、 肝炎、胸膜炎、心疾患、小腸疾患、 虫垂炎、大腸炎、泌尿器系疾患、 子宮・卵巣疾患	疝痛 鈍痛 持続性の激痛 各臓器に特徴的な症状
その他	薬剤性腹痛	内臓痛に準じる

文献

[p001 慢性疼痛治療ガイドライン](#)

[日本語大扉.indd \(mhlw.go.jp\)疼痛の概要 - 07. 神経疾患 - MSDマニュアル
プロフェッショナル版 \(msdmanuals.com\)](#)

病気が見える Vol.6 免疫・膠原病・感染症 MEDIC MEDIA 東京

Vol.7 脳・神経 MEDIC MEDIA 東京

Vol.9 婦人科・乳腺外科 MEDIC MEDIA 東京

Vol.10 産科 MEDIC MEDIA 東京

図解入門 よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ (株)秀和システム
東京

生殖医療心理学会 生殖医療相談士 2020年テキスト